

# 会 議 録

会議名 (審議会等名)		第7期第8回相模原市中央区区民会議小委員会（グループ1）		
事務局 (担当課)		中央区役所区政策課 電話042-769-9802（直通）		
開催日時		令和5年12月22日（金） 10時05分～11時05分		
開催場所		けやき会館 2階 職員研修所 大研修室		
出席者	委員	6人（別紙のとおり）		
	その他	0人		
	事務局	2人（区政策課職員）		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 議題 （1）第7期中央区区民会議重点行動について ・「子育て支援」 ・「子どもの健全な育成環境の充実」		
会議結果概要		現状の課題として挙げられた次の4つの項目について、取組主体に対する提言としてまとめていく。 ・学生ボランティアを充実させる。ただし中学生と高校生も対象にするか次回検討する。 ・ボランティアをしようと考えている人への支援を行う。 ・既存団体が抱えている課題の抽出とその課題に対する支援を更に行う。 ・取組の情報が伝わっていないので、情報発信を強化する。		

主な内容は次のとおり。

## 開 会

事務局から、運営に係る事務説明を行った。

—傍聴希望者 なし—

### 1 議題

#### (1) 情報提供

事務局から提言についての説明を行った。(参考資料)

#### (2) 第7期中央区区民会議重点行動について

(事務局)

前回の継続で、学生ボランティアの対象範囲を大学生以外に小中高校生まで入れるか議論していただきたい。

(加賀谷委員)

小中学生もボランティアに入れていいと思う。

若い頃のボランティア体験が、大人になってからもボランティア精神につながっていく。実例として、そういう子どもたちは一過性ではなく継続してボランティアに来てくれる。

(事務局)

声掛けはどのようにしているのか。

(加賀谷委員)

小学生の場合は、保護者を通じて声掛けし、親子で参加してくれる場合が多い。参加した子どもが今度は友達にも声かけして、繋がっていく。

中学生は必ず学校を通して。学校側に理解してもらい、学校から募集してもらっている。高校生は自発的に来てもらっている。

(事務局)

小学生の場合、口コミのようなところがある。提言書にまとめるには取組主体となる団体に対してどのように働きかけを行うかなどを考える必要がある。

(割柏委員)

地域の横の繋がりという形でうまくまとめられるといい。

現状は地域の有志が集まって、そこから声かけが始まった経緯があるのでそれを取組内容にまとめられるといい。

(清水委員)

小学校ならばPTAを通さないと一部の人しか知らない活動になってしまうのではないか。

そのため単なる人から人ではなく、PTAなどを通した方が活動としては広く伝わっていくのではないか。

(酒井委員)

PTAから声かけも情報発信もできる。学校のHPにPTA用のサーバーがあり、そこから学校にお願いして情報を流すこともできる。学校にもよるが、メールで流してくれるところもある。

(加賀谷委員)

現状は、PTAにはあまりお願いしておらず、地域に広く声かけしている。

(八木委員)

小学生の場合、親を通してとなると、HP等にボランティアのことを掲載しても自分で判断できるのか。ボランティアの対象は、中学生以上の方が自分の判断で参加できるのではないか。

また、小学生は自分の学区内での活動ならよいかもしいが、学区外となると参加が難しいのではないか。

(加賀谷委員)

小さいころからボランティアをやらせたい気持ちは変わらないのだが、自分で判断できる年齢からという考えに賛成で、対象は中学生以上がいい。

(事務局)

前回、ボランティアに資格が必要かという議論があったが、担当課である青少年学習センターに確認したところ資格は必要ないとのことだった。ボランティアは資格の必要はなく、研修などを受講するようなハードルが高いものではないことを理解してもらえるためにはどうした

らよいか。

(加賀谷委員)

以前子どもたちに地域で勉強を教えたいという人がいたが、当時、学校側から学校と教え方が違うと子どもたちが混乱するので控えて欲しいと言われたことが団体の中で浸透している。そのため、退職教員にお願いしたら、教員をやめてから時間がたっており、教え方が今と違うのでできないという意見もいただいた。例えば研修や講座を受ける必要がない中で、ボランティアをお願いするとしたら、双方で指導の仕方や教え方について共有しなければならないと思う。ボランティアの研修等は必要だと思う。

(酒井委員)

学校内に介助員や支援員がいるが、考え方がそれぞれ違う場合があり、今の学校は、誰一人取り残さない。みんな違っていい。という傾向にあるが、年齢が上の方は学校に来ない子が悪い、という考え方の人もいると聞いた。子どもの居場所なので子どもに対する関わり方などの研修が必要だと思う。

(事務局)

大学生のボランティアであれば、教員を目指す学生が多く、子どもの関わり方はある程度理解できているのではないかな。

また、ボランティアをするために、研修を受けなければならないなどハードルをあげることは、ボランティアの妨げになるのではないかな。

(酒井委員)

研修の希望があったらどうするのか。

(事務局)

子どもの居場所づくり総合相談窓口で相談してもらう方法もある。研修しなければボランティアになれないわけではない。心配な人は個別に対応していけばよいのではないかな。

(八木委員)

子どもたちの遊び場、友達という場所などの子どもの居場所のボランティアなら、研修等は必要ないと思うが、学習支援になるとボランティアの質というか考え方が少し変わってくるのではないかなと思う。

(事務局)

子どもたちが気軽に来ることができる居場所づくりのためにどのように働きかけをしていくべきか議論しているので、そこを軸に考えてもらいたい。

(割柏委員)

確かに、まずは寄り添える場所に来てもらえばいいよという話だったが、寄り添いの場所であっても、ボランティアをしてくれる人には、ボランティア研修が必要ではないかなと思う。

(清水委員)

ボランティアをしようかどうかの入口にいる人に対し、ボランティアに求めていることを指南してあげることが必要ではないかな。

(割柏委員)

ボランティアをしてくれる人に対しては、大方の説明は必要だと思う。

(事務局)

ボランティア側の支援を充実させるということか。

現在、市社協ではボランティアをすることに不安などがある人に対して、現場視察をしてもらっているとのこと。

(加賀谷委員)

本当にボランティアをやりたいと行動する人はいるものの、現状はまだ担い手不足である。一過性で終わるのではなく次に続くような体制づくりが必要である。ボランティアをすることに不安を感じている人に対し、相談会や説明会など1年に1回でも市や市社協が連携して開催する必要があると思う。

(事務局)

現在も市社協が開催しているが、あまり知られていないということは周知が足りないのかも。関係者以外にも周知する必要があると思われる。

(八木委員)

今、行われている取り組み内容を知っていると、この議論もできない。団体の活動の中で実際困っていることや要望などがあると思うが、市社協にどのような内容が寄せられているのか。

(事務局)

市社協から各団体の要望等の吸い上げがまだうまく機能しておらず、行政側に情報が伝えられていないため、行政側も支援ができていない部分もあるようだ。

(割柏委員)

周知の話になるが、相談窓口があってもほとんど知られていない。ボランティアセミナーの内容や回数についても、現状のままでいいのかと思う。

(小川委員)

学習支援のボランティアについては、退職教職員の会などでも昔と教え方が違うからといって、人が集まらない。

(加賀谷委員)

教える経験がある人でも躊躇してしまうのだから、若い世代の経験がない方は、どうやって対応していいか悩んでしまうと思う。そのためにもボランティア研修や相談会を開くことが大事だと思う。

(割柏委員)

遊び場の延長であれば、年の近い人たちでもいいと思うが、それでもボランティアに対して、支援をしてあげた方がいいと思う。

(事務局)

次の4点について課題として挙げられたので次回、提言として盛り込んだ形でお示ししたい。

- ・学生ボランティアを充実させる（中・高校生まで入れるかについては次回検討）。
- ・ボランティアをしようと考えている人への支援を行う。
- ・既存団体が抱えている課題の抽出とその課題に対する支援を更に行う。
- ・取組の情報が伝わっていないので、情報発信を強化する。

以 上

第7期第8回相模原市中央区区民会議小委員会（グループ1） 委員出欠席名簿

No.	氏名	所属等	出欠席
1	小川 紳夫	相模原市公民館連絡協議会	出席
2	加賀谷 育子	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら	出席
3	酒井 志保	相模原市PTA連絡協議会	出席
4	清水 洋子	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出席
5	高橋 采花	公募委員	欠席
6	八木 鉄雄	星が丘地区まちづくり会議	出席
7	割柏 秀規	光が丘地区まちづくり会議	出席

(氏名50音順、敬称略)